

## 特集1 地域の居場所づくりからその2～小平はぐくみプロジェクト（通称“こだはぐ”）

前号に続き、市内東側で新たに始まった若い世代向けの居場所として、こだはぐカフェ取材しました。

### ■きっかけは

代表の橋本さんは、2001～2010年に「らいおんキッズ」という子育てインターネットサークルのサイトを運営していた際、母親たちの不安や悩みを知り、支援できることはないかと考えていました。そして一昨年、NPO法人Mystyle@こだいら主催のコミュニティ・ビジネス起業講座で宮井桂子さん、西山みのさんと意気投合し、「産前産後ママの心と体を癒やしたい。支えとなり、助け合える仕組みを作りたい。」と2013年11月にグループを設立、メンバーは現在10名に増えました。

### ■“こだはぐ”が育みたいもの

「はぐくみ」には、「育む」と「Hug」の2つの意味と、“関わる人や思いを温め、大切にしながらはぐくみ発展させていきたい”という願いが込められています。“こだはぐ”が育みたいものは「家族の絆」「夢」「コミュニティ」の3つ。産前産後の女性の心身や夫婦間のパートナーシップ、子育てに関する講座の開催で「家族の絆」を、母親のキャリアやスキルを活かせる場の提供で「夢」を、母親や父親同士の交流の場や産前産後ファミリー対象の“子育て応援カード”で地域社会に温かい子育て支援の「コミュニティ」を育むことです。昨年度は市の市民活

15年前に子育て広場の活動を始めた先輩格の「きらら」や、前号で紹介した多世代交流の居場所「ほっとスペース・さつき」などとの連携もすでに行われているようです。花小金井方面は、ここ数年宅地開発に伴う若い世代の人口が増え、今後も大規模開発が続く地域。そんな小平の時流も見据えた“こだはぐ”の今後の活動に注目していきたいと思います。（取材：伊藤、田原）

動支援公募事業に採択され、4回のこだはぐカフェや子育て応援事業を展開しました。

### ■こだはぐカフェ@鈴木公民館

そして今年5月から鈴木公民館で月2回、ママが元気になる広場として“こだはぐカフェ”の広場事業をスタートさせました。子どもと気兼ねなくお昼ごはんを食べられるように10:00～15:00までオープン（時間帯は変更あり）。西東京市から来た人もいたそうです。部屋には子ども達が遊べるマット敷きのスペースがあり、お茶とお菓子がセッティングされていて若い感性を感じました。「趣味や特技を活かしたい！」というチャレンジ講師のお母さんが体験講座を開催、この日は香りのお守りサシェ作りをしていました。（チャレンジ講師は随時募集中）



### ■子育て応援カード事業

今年度は「西武信金街づくり活動助成金」を得て市内在住の5,000世帯に応援カードを配布予定で、去年より使い勝手よく改良中とのことでした。

### 小平はぐくみプロジェクト“こだはぐ”

ブログ：<http://kodahug.blog.fc2.com/> HP：<http://kodahug.com/>  
Facebook：<https://www.facebook.com/kodahug>  
問合せ：[contact@kodahug.com](mailto:contact@kodahug.com)



## 特集2 企業の社会貢献活動 三菱電機ビルテクノサービス(株)と「絵画展 口と足で表現する世界の芸術家たち」

同社はエレベーターやエスカレーターなどビル設備管理を本業とする会社ですが、「そのような企業がなぜ絵画展を？」という素朴な疑問を持ちながら、5月15日（金）絵画展を訪ね、担当者にお話を伺いました。

### ■そもそものきっかけは

作品との出会いは1991年。小平市花小金井にある同社研修センターに新築した宿泊施設に展示する絵画を捜していた時、「口と足で描く芸術家協会」の絵を購入したのが始まりでした。研修センターに集まった社員達がその絵に感動し、近隣の方々にもぜひ鑑賞してほしいという思いから、1992年社員が手作りで絵画展を開催。

### ■社員のアイデアが会社の活動に

研修で全国から集まった社員が夫々の地元の人たちにも観てもらいたいと、1994年からは支社所在地でも開催。絵は同社が所有する約800点の中から約50点を選び、今年3月までの23年間で全国235ヶ所で開催、延べ約65万人が鑑賞したそうです。絵画展の運営は、社員が有給休暇を取って家族も巻き込んでボランティアで行っているとのこと。とはいえ、搬送や会場設営等の運営諸経費はそれなりにかかるもの。厳しい経済状況の中、真っ先に削られそうな活動を継続してきた経営陣の決断には頭が下がります。

絵画展は、この後全国10ヶ所程度を1年かけて巡回します。また同社ウェブサイト内の「MELTEC GALLERY（メルテック ギャラリー）」でも観ることができます。  
URL <http://www.meltec.co.jp/gallery/> （取材：藤原、田原）

### ■絵の素晴らしさ

「地域の人にも観てもらいたい」という思いは、飾られた絵をひと目見て理解できました。絵の横には画家のプロフィールと創作風景の写真が掲示されています。生まれつきや若い頃のスポーツ中の事故などの運命を背負った方々が、絵という表現方法に出会い、芸術家協会の奨学金制度を得て技術を磨き、生きる勇気を得てきた、その人生に思いを馳せた時、絵が一層の輝きを放って見えました。

### ■地域への社会貢献

この日は小平五小5年生の社会科見学があり、画家の森田真千子さん（大阪在住）が実演していました。「試してみて！」と促された子どもたちは、床に這いつくばり口に鉛筆を加えて四苦八苦。「絵を描く上で大事なことは？」という子どもの問いに「あきらめないこと」と答えていたのが印象的でした。この出会いは子どもたちの心に大きなモノを残したことでしょう。

今回の特集記事は、小平市民活動ネットワークのHPでより詳しく紹介しています。